



## 子どもが幸せに育つ過程においては母性と父性の両方が必要！

人が幸せと感じる瞬間って、何かを与えられたり目に見えたりしている事象そのものではないと思います。何らかの事象や出来事を通して、感じる心地良さであったり、寄り添ってくれる誰かの存在を感じたりした時ではないでしょうか。1月下旬には家庭教育学級で「大人の幸せ、子供の幸せ」というテーマで話をさせていただく機会がありました。保護者の方が幸せを感じる要素の3分の1以上が子供にかかわるものでした。そうした中、「一人でお酒を飲んでいるとき」「主人がテレビを見て笑っているとき」「自分の足でトイレに行けること」「庭に鳥がやってくる時」なども見られ、うなずけたり笑みがこぼれたり。そうした何気ない中に心地よさや安心感という幸せの瞬間があるのだと感じました。

さて、今回は「子供の幸せ」について考えてみたいと思います。タイトルにある「母性」という言葉には、ふんわりと柔らかく包み込む女性的な響きがあります。逆に「父性」は、厳しい男性的なイメージの言葉としてとらえられます。しかし、少し違うようです。『ただ子供を受け入れる、子供のありのままの気持ちを受け止める』という受容の姿勢が「母性」。一方「父性」はというと、『社会で生きていくためのルール・しつけ』なのだと思います。

そうだとすると、ともに母(女)や父(男)に限るものではありませんから、子供を受け入れる母性が父親にあってもいいわけですし、ルール・しつけの部分が母親でもいいのです。また、一方が両方を兼ね備える場合だってあり得ます。第三者でも構いません。例えばおばあちゃんが母性で、母親が父性だったりとかする場合も考えられます。ただ、子供が本当に幸せを感じられるようになるには、必ずこの母性と父性の両方が必要なのだと思います。

子供が泣いて訴えているとき、「痛かったね」とか「そうか、悲しかったんだね」「○○は頑張ったんだね」と子供の気持ちをそのまま受け入れて、母性の部分を満たすことが大事なのだと思います。子育てと仕事とで、生活に余裕がない場合でも母性と父性は欠かせないものなのです。これは学校の教職員にも同じことが言えます。担任には「母性」と「父性」の両方を持ち合わせ、かつ使い分けることが求められるのです。



さらには、母性(愛情)が先、父性(しつけ・ルール)が後というような順番も大事にしなければなりません。特に、赤ちゃんが生まれて言葉を話す1歳過ぎまでは母性(愛情)を先に受けなければ、その後の父性(しつけ・ルール)を教えても伝わらないといえます。よく盲導犬や介助犬は、子犬の時からパピーウォーカーという制度の飼い主のもとで、愛情たっぷりに育てられてから、その後訓練が始まり一人前となります。野生の動物も、生まれて間もない時はひたすら母親のおっぱいを飲んで、身も心も満たしてから、厳しい自然で生き抜く術を親から教わります。

人間も最初に母乳やミルクだけではなく、愛情で心が満たされないと、親から離れその後の社会に身を置いた時、苦しくて生きづらくなってしまふのかもしれない。小さな子供であるほど感じる力は敏感ですから、本当の愛情か条件付きの愛情かちゃんとわかってしまいます。父性(しつけ・ルール)は自分次第であとからでも身につけられるものだと考えられますが、母性という無条件の愛情は、ある程度年齢がいつてしまうと、ましてや大人になってしまふとなかなか感じることは難しくなってしまうのです。

親はいくつになっても子供の幸せを願います。我が家も「母性」「父性」を見つめ直してみます。



## 遊び心を大切に



2年生の算数で「ちがいをみて」という単元があります。つい最近まで、各教室で図を駆使して解いている姿を見かけました。本校の話ではありませんが、あるドリルにこんな文章問題があったそうです。

ガムは75円です。

ガムは、クッキーより40円やすいそうです。チョコレートは 何円ですか。

子供は真剣に考えます。75+40=115を導き出そうとします。でも、「あれっ？」と思うのです。そして、「意味が分からない」「どうしたらいいのだろう？教えて！」と。

おそらく問題を作成した人が誤って、「クッキー」と書くべき部分を「チョコレート」と記載してしまったと思われる。まじめな小学2年生には超がつくほどの難問です。ただ、この問題文のまま皆さんが答えるとしたら解答欄にどんなことを記しますか？

「チョコレートはおまけでついてきたものだったので値段はない」とか「販売会社の希望小売価格です」、「バレンタインデーでのいただきものなのでわからない」なんていうのも、とんちが効いて面白いですね。あるいは、「おかし(お菓子)な問題です」とでも答えましょうか。

私は個人的にこういういたずら的な問題が大好きです。教室を訪問した際に、板書された問題を、私がおかしな問題に変えてつぶやいているのを聞いた子もいるはずです。

正面から対応しようとするまじめさ、ケラケラと笑って楽しんでしまう遊び心、これらをTPO で使い分けながらも、許しあえる心の余裕も持ち合わせたいと思っています。



## バレンタインデーに関する雑学

上述の算数にチョコレートが登場したので、「バレンタインデー」について調べてみました。日本型のバレンタインデーはチョコレート会社が仕掛けたものだといわれますが、その絶対的根拠はないようです。また、「言い出した企業」と「流行らせた企業」はイコールとは限らないようです。むしろ、バレンタインチョコの定着には、小学校高学年から高校生の存在が大きいです。当時の小中高生にウケれば、ロコミによる影響力は凄まじいものがあつた時代です。現代で言えばSNSでの評判は集客力に大きく響くと同じです。

そして、時代とともに、「本命チョコ」しか存在しないはずのチョコが、「義理チョコ」「逆チョコ」「友チョコ」「自己(自分)チョコ」などと、何でもありの様相を呈してきました。

ホワイトデーはどうでしょう？マシュマロやキャンディに始まったホワイトデーのお返しも、様々な形に変化を遂げています。お返しに「パイ」が行っているという噂も…。パイ $\parallel$  $\pi$ (円周率) $\parallel$ 3.14。つまり、三月十四日のホワイトデーとなるのだそうです。

この日本で始まったとされる「ホワイトデー」は、東アジア各国にも広がりを見せています。お隣の韓国でも、二月十四日はバレンタインデー、三月十四日はホワイトデー。さらに、四月十四日も何やらあるそうです。

実は、バレンタインデーとホワイトデーの両日に縁の無かった男女が、黒い物を飲食する日、つまり「ブラックデー」と呼ばれるのだそうです。ところで、今日のバレンタインデーが気になっていたのは誰？



■自転車で衝突の元少年に約9400万円の賠償判決 ■二〇一五年、当時高校生が夜間に無灯火の自転車で行中、パトカーに追跡され、制止のために立ち上がった警官と衝突(時速四四キロ)し死亡させた事件です。時折、無灯火・右側歩道走行の児童を見かけます。他人ごとではないと思います。